

[4] 串間市小体連（学校数10校 児童数896人）

I 年間事業

期 日	事業名	主な内容	会 場
5月18日（火）	第1回理事会	前年度事業・会計報告・役員選出・事業計画・予算案審議	北方小
6月8日（火）	第2回理事会	水泳指導について 研究内容の確認	北方小
7月5日（月）	第3回理事会	水泳指導について 運動会について	福島小
9月16日（木）	第4回理事会	陸上記録会計画 ネット型ゲームについてのプレゼン	北方小
10月5日（火）	第5回理事会	陸上記録会 役割分担・諸準備等	市総合運動公園陸上競技場
10月20日（火）	第6回理事会	諸連絡、次年度に向けての備品整理	北方小
11月2日（火）	第7回理事会	研究授業①（プレルボール）	本城小
12月7日（火）	第8回理事会	研究授業②（プレルボール）	有明小
2月17日（木）	第9回理事会	事業反省・研究のまとめ	北方小

II 事業部のあゆみ

1 陸上記録会

- (1) 大会名 令和3年度 串間市小学校陸上記録会
- (2) 実施日 令和3年10月21日（木）
- (3) 会場 串間市総合運動公園内陸上競技場
- (4) 出場者 串間市内各小学校6年生児童 ※小規模校は5年生も参加
- (5) 実施種目
 - トラック競技
 - ・100m ・800m（女子） ・1000m（男子） ・50mハードル ・400mリレー
 - フィールド競技
 - ・走り高跳び ・走り幅跳び ・ソフトボール投げ
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする
 - 出場は、リレーを除き、トラック・フィールドを合わせた全ての競技の中で、1人1種目とする。
 - その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 8：45 競技開始 9：00
競技終了 11：45 閉会式 11：50
- (8) 表彰
 - 上位6名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。
- (9) 反省
 - ・ 今年度は延期日がなく、当日が雨天で中止となった。各学校で記録を取り、集計し、賞状を渡した。
 - ・ 熱中症対策として、競技時間短縮を目指し、100m走を全員参加ではなく、選抜にして実施予定だった。
 - ・ はちまきの有無 → 人数減により、はちまき無しでも行えるのではないかな。しかし、観覧側からは児童特定がしづらくなる。 → 次年度検討。
 - ・ 第6学年不在の小学校の参加の有無 → 第6学年不在の小学校は不参加可能とする。
 - ・ 役員確保が難しい。 → 児童引率の先生方に御協力いただく。
 - ・ 記録をスムーズに行うことができるように、本部記録担当は自校からタブレット、PCを持参する。会長は、その旨を担当校へ連絡する。

【新型コロナウイルス感染症への対策】

- ・ 開始時刻を早めたり、プログラムを改めたりして半日開催とした。
- ・ 観覧席入場に検温所を設けた。
- ・ 「児童一人につき保護者一名まで」と入場制限を設けた。
- ・ 保護者は常時、児童は待機中マスク着用とした。

2 その他

水泳の授業については、昨年度に引き続き、水の事故等から命を守る力を身に付けさせるという目的で行った。新型コロナウイルス感染症対策として以下のことを行った。

- ビート板やプールの手すり、ドアノブ、蛇口等の消毒及び更衣室の常時換気を徹底する。
- 学年ではなく、学級単位によるプール使用を計画する。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童の育成
～ 小・中連携による主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫・改善を通して～

2 主題設定の理由

串間市小体連では、令和元年度より2年間、器械運動における「主体的・対話的で深い学びのある授業」はどうあれば良いかを授業の工夫・改善の視点で進めてきた。

一昨年度は、マット運動での研究授業会を実施した。成果としては、学習課題の設定の工夫やワークシートの工夫をすることで、児童の主体的な学びに繋がった。また、タブレットを使うことで自分の動きを振り返ることができるようになり、自己との対話もより促されるようになった。課題としては、単元レベルでの授業改善をどのように行うべきか考え実践していく必要があることが挙げられた。

昨年度は、コロナ禍で授業研究会は実施できなかったものの、各校で跳び箱運動の実践に取り組んだ。また、各校の実践を集約した。実践報告集は、器械運動の指導資料として利用できた。

今年度は令和5年度の県学校体育研究会での授業発表を踏まえて、ボール運動における「小・中連携」を副題に加えて、小学校段階でのネット型ゲームの学習に視点を当て、児童が進んで関わろうとする体育科授業について研究を推進することにした。

3 研究の目標

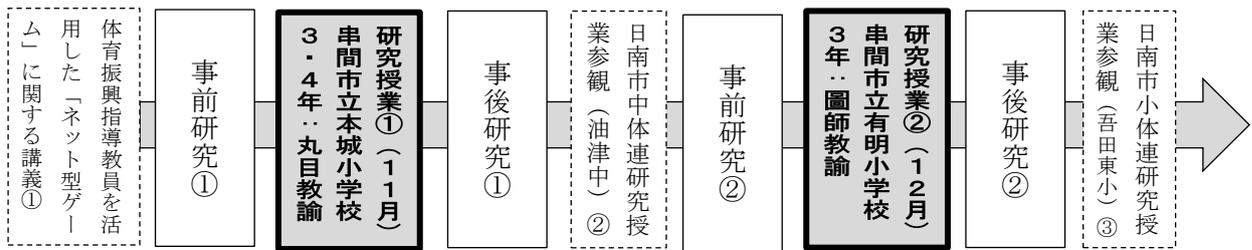
運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童を育成する指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

体育科授業において、主体的・対話的で深い学びの視点から、自分やチームの課題と向き合い、運動のポイントを意識できるような工夫を行えば、運動の楽しさを実感し進んで関わるようになるであろう。

5 研究の実際

今年度は「ネット型ゲーム」に焦点を絞り、研究授業を行った。同じ単元（プレルボール）、同じ内容（アタックの仕方を考える）の授業を2回（11月と12月）行うことで、1回目の授業で明らかとなった課題を2回目の授業で改善できるようにした。研究の流れとしては、以下の通りである。



また、今年度の研究主題にある「主体的・対話的で深い学びの視点から、自分やチームの課題と向き合い、運動のポイントを意識できるような工夫」を指導案に明記することで、事前研究や事後研究で検討すべき事柄が明確になるようにした。

(1) 本城小学校 (3・4年) で行われた研究授業【11月】

ア 学習指導案の一部

10分	2 本時のめあてを確認する。	本時のめあて：相手チームがボールを返しにくいような攻撃の仕方を考えよう。
	<p>3 相手チームが返しにくいようなボールについて、具体的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 軌道の低い／高いボール ・ ライン際に落ちるボール ・ 人のいないところに落ちるボール ・ 速いボール 	<p>【対話を生み出し、主体性を高める発問の工夫①】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>バレーの時と同じように、ネットの近くで強く打つ方が当然良いよね？</p> </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>そうそう!</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>えっ!? そうかな...? 強く打つと、バウンドしすぎないかな?</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ネットの遠くから打つのも、相手は取りにくいそうじゃない?</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>そしたら、どんなボールだったら、相手チームは返しにくいかな?</p> </div>

「主体的・対話的で深い学び」のイメージを、教師と児童のやりとりで表した。

イ 授業の様子



相手が返しにくいボールを打つポイントを、言葉や写真、教師の実演で示した。

ウ 研究授業② (有明小学校) 向けの課題

- 児童どうしが考えを交流しながら動きを高め合うような時間があるとよい。
- タブレット端末を活用しながら、自分たちの動きを客観視させたり、より良い動きのモデルを見せたりできるとよい。
- 授業のどの場面で評価をするのかが曖昧であった。タブレット端末の撮影機能やワークシート等を活用しながら、評価できるとよい。

(1) 有明小学校（3年）で行われた研究授業【12月】

ア ワークシート

話し合い①	
①バウンドの高さ	ひくい
②アタックする場所	相手のいない地の手前
③アタックのスピード	少し速く
話し合い②	
①バウンドの高さ	
②アタックする場所	相手のいない所
③アタックのスピード	

アタックにおける「運動のポイント」を観点ごとに考えたり、話し合ったりできるようにした。

イ 授業の様子



ワークシートを活用することで、得点につながる攻撃の仕方を考える→実践する→考える→実践するといった流れ生まれ、児童どうして動きを高めようとする姿が見られた。



タブレット端末の撮影機能を活用し、児童の動きをその場で確認したり、良い動きを紹介したりした。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 同じ単元、同じ内容の研究授業を2回行ったことで、1回目の研究授業で明らかになった課題を、そのまま2回目の研究授業に生かすことができた。また、児童に「運動のポイント」を意識させることで自分やチームの課題が見えやすくなり、主体的に話し合ったり、運動に参加したりする姿が多く見られた。
- 体育振興指導教員に指導技術のポイントを学んだり、小中連携を進める上で中学校の体育指導の立場からの小学校段階での指導の力点について学んだりすることができた。また、日南市の授業研究会に参加したり、串間市の授業研究会に日南市の小体連が参加したりしながら、交流と研修を深めることができた。

(2) 課題

- 事前研究や事後研究でタブレット端末の活用方法について様々な意見が出たにもかかわらず、授業の中で十分に生かすことができなかった。ゲームの単元におけるタブレット端末の活用方法について、更に研究を進めていきたい。
- 研究主題にある「主体的・対話的で深い学び」について更に協議を重ね、ゲームの単元で「主体的・対話的で深い学び」をさせるにはどのような手立てが必要なのか、具体的な指導法について研究を進めていきたい。